

Book Review

ジェネラリストのための 眼科診療ハンドブック

石岡みさき 著

本書は、スペシャリストからジェネラリストに向けた鮮烈かつ明快なメッセージである。

初めて手に取ったとき、思わず「こんな本が欲しかった」の一言が出た。と言うのも、そもそもスペシャリストとジェネラリストが共有できる書物やそれを意図する本が、残念ながら極めて少ないからである。あったとしても、『JRC 蘇生ガイドライン』のように、ジェネラリストからスペシャリストに向けられるものがほとんどであり、その逆向きのベクトルによるメッセージを込めた（銘打った）本は正直見たことがない。

期待に胸を膨らませて本書を開くと、今度は思わなくなってしまった。目次の冒頭、いきなり「緊急度」の文字が眼に飛び込んできたからである。多くの専門書と異なり、「重症度」ではなく「緊急度:Acuity（アキュイティ）」を類型化して病態を解説しているのである。正直、これには驚いた。緊急度は「時間が重症度に及ぼす影響の程度」である。もう少しかみ砕くと、緊急度が「高い」状態とは「重症化するまでの時間が短い」状態を意味する。したがってそれを判定するということは、重症化を防ぐために診療を開始するまでの「持ち時間あるいは時間的余裕」を判定することである。多くのジェネラリストがまず知りたいのは、まさしくこの緊急度なのだ。眼科医に、「すぐに」「翌日

に」「1週間以内に」診てもらうべきか、そもそも「眼科以外でも対応可能」なのか。本書はまさにここを明確に記している。蛇足だが、レストランのランク付けを思わせる星の数で「緊急度」を分類しているのもユニークである。

さらにページをめくると、これまた図と写真が程よく掲載されていてとてもわかりやすい。項目立てでも、ジェネラリストが日常よく出会い、また迷うところを網羅している。これらの意味でジェネラリストにとっては痒いところに手が届く使い勝手さを持っている。

他方、本書はジェネラリストのみならず、スペシャリストにとっても必携の書である。スペシャリストの中で言うことが違えば、メッセージを受け取る側は混乱する。何を伝えるべきか、どのように伝えるべきか。これらをスペシャリストが共有し、発信していくことでジェネラリストとのさらなる連携が深まっていくこと、間違いない。

本書のコンセプトが、今後続々と他の本にも受け継がれていくことを心より望む。

横浜市立大学大学院教授・救急医学
森村尚登

A5・頁198 2015年12月
定価：本体3,400円＋税
[ISBN978-4-260-02418-1] 医学書院刊